

令和 6 年 9 月 11 日 メルボルン交流抄

「ビクトリア州最高裁判所の日本語の堪能な裁判官」

「州の司法制度では最高裁判所(Supreme Court)が頂点に位置づけられる。ビクトリア州最高裁判所は総領事館から徒歩にて 2、3 分の所に位置し、一般見学もできるようになっています(詳しくは[こちら](#)をご参照ください。)

このビクトリア州最高裁判所に日本語が堪能な判事が裁判官として活躍されておられます。彼の名前はピーター・グレイ(Peter Gray)。彼は、30 年ほど前にメルボルン大学法学部の学生であったとき同大学と慶応大学の交換留学プログラムで一年間慶応大学の法学部に留学しました。その時に習得した日本語は今でも覚えていて、流暢に日本語を話されます。ただ、今の最高裁の仕事では日本語を使う機会はまず無いとのこと。なお、この時に慶応大学法学部からメルボルン大学法学部に交換留学したのが、当館でローカルスタッフとして活躍する K 職員です。

さて、先日、グレイ判事の案内で裁判所の中を見学させていただきました。19 世紀後半に建造された建物は荘厳で趣があります。この建物は、アイルランドの首都ダブリンにある最高裁判所を模して建造されたそうです。当時、アイルランドからの移民が大量にオーストラリアに来たということに関係するのでしょうか。裁判所内の図書館も 19 世紀のゴールドラッシュ時の繁栄を窺わせるような優雅な空間となっています。

オーストラリアでは州ごとに最高裁判所(Supreme Court)があり、さらに上告が認められた場合には、連邦の最高裁判所(High Court)で審理されます。連邦レベルの最終審も連邦最高裁判所となります。連邦最高裁判所は 1901 年の建国後、1980 年に現在の連邦最高裁判所の建物がキャンベラにできるまでメルボルンの最高裁判所の隣の建物の中にあっただそうです。

裁判所の中に 10 数室ある法廷のいくつかを見せてもらいましたが、誰でも法廷を傍聴できるそうです。黒いガウンは今も使われているそうですが、ウィッグは最近は使われていないそうです。その日は、たまたま法廷は閉会中のため傍聴することはできなかったのですが、法廷内は独特の緊張感があり、張り詰めた雰囲気がありました。

最後に、グレイ判事の落ち着いた書斎のような執務室を訪問しました。数名の同僚の判事も加わって、いろいろと懇談をしました。日本の裁判所関係者がビクトリア州最高裁判所を将来的に訪問できないものか、お互いに考えていきたいと思いますということになりました。

冒頭に申し上げましたが、州最高裁判所は一般公開されていますので、ご関心ある方は是非一度問い合わせてみてください。



向かって右から2人目がグレイ判事